

成田 滋賀県議会議員 セイリユウ



滋賀県議会活動
NewsReport Vol.49
2017年春号



2月定例会議
代表質問に登壇！

2017年度の予算を審議した2月定例会議が終わりました。今年度のチームしが県議団の政調会長として、代表質問を行い、**新年度予算編成や災害対策、健康寿命の延伸、交通政策など、「新しい豊かさ」の具現化に向け、10項目にわたり、県の施政を伺いました。**

三日月知事からは若者の希望の創造をはじめとする4つの視点に重点に、「夢や希望に満ちた豊かさ実感・滋賀」の実現に向けて、着実に成果をあげていきたいとの予算案に向けた意気込みを答弁されました。

三日月知事と共に、物質的な豊かさや、今だけ、自分だけの豊かさだけでなく、将来にわたって持続的にみんなが感じることのできる、人や自然とのつながり、心の豊かさを重視する「新しい豊かさ」へとつながり、また琵琶湖を中心として、**自然と共生する社会のモデルを創造する滋賀**になるよう、頑張っています。

成田 政隆

2017年度予算の特徴

● 4つの視点に重点を置いた総合戦略の19のプロジェクトを推進

①若者の希望の創造 (72事業 110億円)

- 「子ども・若者総合相談窓口」設置事業 (300万円) (新)
- 子ども家庭相談センター一時保護所増設事業 (300万円) (新)
- 大津・高島子ども家庭相談センターにおける一時保護所整備

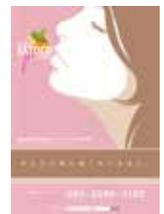
②国内外から人やものを呼び込む新たな価値の創造・発信 (92事業 23億円)

- 「ピワイチ」の推進 (154百万円)
- 滋賀の魅力を活かした公共交通利用促進事業 (17百万円)
- 滋賀・びわ湖ブランド推進事業 (324百万円)
- 首都圏情報発信拠点の開設など



③だれもが健康で、活躍する社会づくり (159事業 496億円)

- 健康寿命延伸事業 (300万円)
- 環境こだわり農業支援事業 (702百万円)
- みんなで考える公共交通事業 (300万円) (新)
- 地域協働交通社会実験事業 (100万円) (新)
- 大津湖南エリア地域交通活性化促進事業 (190万円)
- バス交通社会実験 (新)
- (仮称) 滋賀県地震防災プランの策定・推進 (100万円) (新)
- 犯罪被害者支援事業 (150万円)
- 性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖 (SATOCO) の支援体制の強化



④琵琶湖や山と人々の暮らしとのつながりの再生 (60事業 26億円)

- 琵琶湖の水草等のクリーンアップ (669百万円)
- 侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業など
- ひきこもり者と家族に学ぶ公私協働による地域づくり事業 (600万円) (新)
- みんなで淡海子ども食堂を作ろう! 応援事業 (150万円)



「人口減少社会」に対する挑戦や
「琵琶湖新時代」に向けての取組を着実に推進

● 持続可能な財政基盤の確立 (プライマリーバランスが4年連続黒字)



マニフェスト大賞優秀政策提言賞を受賞!

このたび、第11回マニフェスト大賞優秀賞が発表され、応募総数2514件の中から、優秀政策提言賞を頂きました。受賞内容は、一昨年6月定例会議で提案し、2016年度から「がん患者の未来の家族計画応援事業」として事業化した施策であります。

がんは誰にでもなりうる病気であり、若くしてがんになる方も年々増加しております。しかし、医療の進歩もあり、早期発見、治療により、生存率は高くなります。若くしてがんに罹患しても、治療後に子どもが望める「がんの妊孕性温存」*は大変重要であり、若年がん患者の一つの希望の光となれば幸いです。

*妊孕 (よう) 性温存とは、若年がん患者や免疫疾患患者に対する治療により、将来妊娠の可能性が消失しない様に生殖能力を温存するという考えです。

第11回マニフェスト大賞優秀政策提言賞 受賞内容

若くしてがんになっても生きがい失わない。希望をもってがんの治療に取り組める。がん治療後も子どもが望める「がんの妊孕性温存」の政策を提言しました。

①がんは死因の第一位

がん罹患する可能性は、生涯のうち、男性の2人に1人、女性の3人に1人であると推定されており、今後もがんによる死亡数は増加することが予測されております。実際に、がんは死因の第一位であり、年間30万人以上が死亡しています。

②若年がん患者の増加と死亡率の減少

国においては、2015年6月にがん対策推進基本計画中間評価報告書を出されました。そこでは、今後のがん対策の方向性について、重点的に取り組むべき課題として、新たに「働く世代や小児へのがん対策の充実」が盛り込まれ、個々のライフステージごとに異なった身体的問題、精神心理的問題、社会的問題が生じていることから、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代、すなわち思春期世代と若年成人世代をはじめ、ライフステージに応じたがん対策を講じていく必要がでてきました。

③がん・生殖医療ネットワーク

がんに対する手術、放射線照射、化学療法による影響で、生殖機能が低下したり、不妊になったりする場合があり、がんが根治したとしても、悲しい現実が追い打ちをかけることになります。

一方、現在、生殖医療の発展により、がん治療前や治療中に生殖細胞を凍結し、がん治療後に妊娠する力が損なわれた場合の予備として保存しておく、すなわち妊孕性を維持するがん・生殖医療が発展してきました。

④「がん患者の未来の家族計画応援事業」

がん診療従事者が、妊孕性温存の方法、所要日数、リスクなどの情報を患者に提供し、対応を考えることは困難であります。そのため、患者が容易に情報を得られ、妊孕性温存施設の生殖医療者に相談できるような仕組みの必要性和、がん・生殖医療を行う際には保険適用がされず、自費診療の場合も多く、50万以上の費用が掛かるこの二つの大きな課題に対して、滋賀県として事業として取り組むことを協議しました。

その結果、全国初となる「がん患者の未来の家族計画応援事業」として採用され、子どもを望む若いがん患者に対し、精子・卵子等の保存処置の助成を行うとともに、理解を広げるためがん診療医療機関の啓発を行うこととなりました。

⑤国においても議論が始まる

実際、2016年度において、がん患者の未来の家族計画応援事業の制度を8人 (内男性1人) が利用されました。加えて、この制度については、厚生労働省のがん対策推進協議会の場において、滋賀の事例を取り上げながら、全国展開がなされるように議論がされております。全国においても、一人でも多くの方が制度を活用でき、未来に希望が持てる社会になればと願います。



成田セイリユウ プロフィール

チームしが 県議団所属

1974年8月15日 大津市生まれ
唐崎小、唐崎中、膳所高卒業
龍谷大学法学部政治学科卒業
同志社大学大学院総合政策科学研究科
博士前期課程 修了

議会運営委員会 委員
総務・政策・企業常任委員会 委員
総合交通・防災対策特別委員会 委員
滋賀県議会 自転車議連 副会長

大津市消防団唐崎分団 班長
NPO法人おつ環境フォーラム 理事
全国災害ボランティア議員連盟 理事
ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟 運営委員

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎1-25-17-601 e-mail mail@narinari.net URL http://www.narinari.net

成田セイリユウから、みなさまへのお願い

- 滋賀県・大津市に関するご質問、ご意見をお寄せください。
- 活動や報告についてのご意見、ご感想をお待ちしております。

- 定期的に県議会活動レポートを送付いたします。必要な方はご連絡ください。
- ボランティアスタッフを募集しております。

交通政策

今一度、地域交通を維持発展させるため
地域公共交通の役割を明確化する条例の制定を!!

公共交通の位置づけを再認識

日本は概して公共交通機関の運営を民間に委ねすぎで、費用対効果をはじめ、民間の経営努力を意識している一方で、郊外への公共施設や大型ショッピングセンター、道路の基盤整備など、マイカー中心の車社会の構築をおこない、結果、公共交通の経営を圧迫しているという矛盾をはらんでおります。

今一度、福祉政策や観光政策、まちづくりなど多岐にわたった政策の連携を図り、また**誰もが必要な時に必要な場所へ移動できる**環境を整え、交通弱者を意識した

県民に交通を保障する権利、「交通権」を滋賀県に位置付けるとともに、行政と交通事業者、NPO、地域団体も含めた民間との役割を新たに構築し、公共交通を守っていく必要があります。



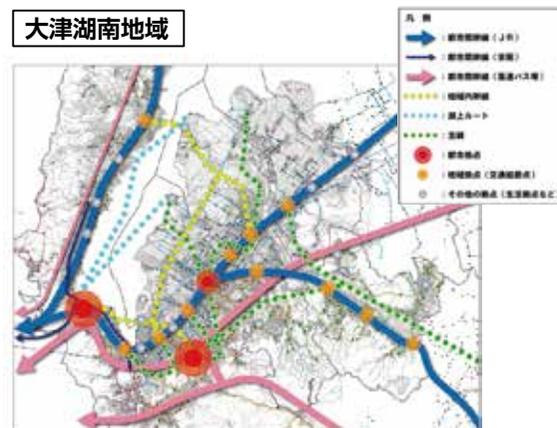
加藤博和名古屋大学准教授を招いての勉強会

湖西線維持発展に向けて

湖西線利便性向上プロジェクトの取り組みにより、防風柵の延伸等が進んできたが、北陸新幹線が「小浜京都ルート」が適切であるとの報告とともに、湖西線が並行在来線になるのではと、利用者から大きな不安を伺っております。この問題を見守るだけでなく、ダイヤの改善、防風柵対策の更なる延伸、湖西線沿線の魅力発信による観光客数の更なる増加など、湖西線利便性向上プロジェクトを継続的に発展させ、県とJR、地域住民と一緒に取り組みをすすめ、利用者を増加させ、**湖西線がだれにとっても重要な路線**として位置付けていくことが何よりも重要であると考えます。

そんな中、三日月知事からも、「**並行在来線の経営分離は認められない**」という基本的考え方のもと、経営分離阻止に向けた理論の構築を行い、国やJR西日本に対し、本県の意向をしっかりと主張して

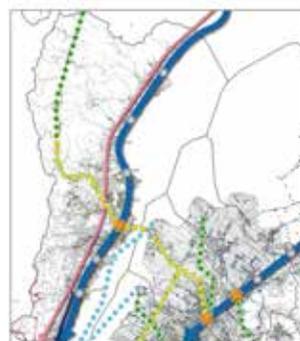
大津湖南エリアの将来交通ネットワーク素案



びわこ文化公園都市周辺



湖西・湖岸地域



いくとともに、湖西線の利便性向上や、バス交通などのアクセス向上、さらに観光誘客など地域活性化に、沿線市町や企業の皆様と連携して、全力で取り組んでいく」と力強い答弁を頂きました。

大津湖南地域のアクセス向上へ

人口減少が進む地域において、地域公共交通が今後も維持・確保できるように守っていく必要があるとともに、モビリティマネジメントなど、人口が増加している地域を、BRTやLRTの活用等、さらに公共交通を利活用し効率性を高めていく必要があります。

特に、**大津市湖南地域の持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築**、特に新生美術館や県立体育館の建設が予定されているびわこ文化公園都市への交通アクセスの向上が必要であり、**みんなに優しく、利便性の高い、大津湖南地域を「ひとつ」につなぐ充実した広域公共交通ネットワーク**が築かれなければなりません。

2017年を公共交通政策元年に

三日月知事の代表質問の答弁において、「公共交通の維持・確保に向けて、県民・交通事業者・行政の果たすべき役割や、過度に自動車に依存した社会やライフスタイルの見直し、また、公共交通を支えるための費用負担のあり方について検討する」とされました。

また「人口減少や超高齢社会の進行を踏まると、公共交通だけでなく必要な移動手段を確保することは困難であり、福祉政策やまちづくりとの連携や多様な移動手段の検討など、地域の实情に応じて議論を深め、公共交通の維持・確保と地域における移動手段の確保に向け、県民、交通事業者、行政がそれぞれ共通の理解のもとで取り組みを進めるためには、**来年度は有識者を中心とした検討組織を新たに設置し条例の方向性や骨子について集中的に検討する**」とされました。

2017年度、滋賀県において、様々な課題や地域の实情等を踏まえ、誰もが必要な時に必要な場所へ移動できる社会を目指す、公共交通政策元年になるよう、頑張っ参ります。

※滋賀県基本構想や人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略滋賀交通ビジョンと共に、周辺6市の総合計画や総合戦略、都市交通マスタープランで示された将来像・方向性をもとに導出した。

観光政策

ビワイチ推進室の設置でさらなる魅力高め、
自然体感型のスポーツツーリズムの推進を!

ビワイチ観光の魅力発信

ビワイチを観光資源にと2009年に一般質問で提案しました。その後、滋賀県において、地方創生交付金の活用も含め、「新しい豊かさ」を実感できる観光資源「ビワイチ」による観光振興に向けた取組みを進めています。自転車の走行環境整備・交通システム整備・観光施策を一体として推進していくために、2017年度は**ビワイチ推進室が設置され、だれもが安全・安心に楽しめるビワイチ推進総合計画の策定**など、自転車観光を楽しめるコンテンツとして確立し、ハード・ソフト両面から効果的な施策が展開されます。

また昨年は自転車のビワイチだけでなく、比良比叡トレイルや高島トレイル、さらには伊吹、鈴鹿、東海自然歩道など、**滋賀の山々をトレイルでつなぐ、山のビワイチ構想**も提案しました。自然体感型のスポーツツーリズムから、さらに健康、歴史、文化などのコンセプトをあわせ、県内各地の魅力が体感できる滞在型、回遊型の観光資源として、さらに発展して行けばと思います。



新たなぐるっとびわ湖サイクリングマップができました。詳しくは滋賀県HPをご覧ください。

ビワイチ観光推進事業 17,136千円

- サイクルサポートステーション(CSST)拡充 (H28:126カ所(12月末現在)⇒H29:200カ所)
- ビワイチグッズ開発促進
- サイクルツアーガイド養成
- 観光ルート開発(水の文化・スウィーツ・歴史)
- ビワイチ推進総合計画の策定
- 官民によるビワイチ推進主体形成へ
- サイクリング系広報媒体による発信
- サイクルイベント出展によるPR
- 国内外のキーパーソン招聘による発信
- モニターツアー実施による発信

「ビワイチ」安全・安心な自転車利用促進事業 22,200千円

- レンタサイクル利便性向上検討(電動アシスト)
- タンデム自転車の利用に関する研究
- 安全利用啓発(サイクリスト・CSST・自動車・バイク)

自転車走行空間整備事業 114,921千円

- 走行環境整備・路面表示によるルート案内 (H29:約20km区間整備)
- 路肩拡幅等による走行空間確保 (H29:3カ所工事着手)

健康社会の生涯スポーツとして

- 各種ライドイベントの広報等応援(ビワイチロングライド、ツール・ド・湖北、高島ロングライド)
- サイクルラック等、駐輪設備設置促進(サイクルラック設置H28:38カ所⇒H29:43カ所)

安心・安全なビワイチ環境づくり

- 湖岸緑地等における休憩拠点づくり(調査検討)

ビワイチの楽しみ方を広げる

- 「ビワイチ」レンタサイクル拠点の設置の促進(H28:2カ所⇒H29:3カ所(民間整備含む))
- 湖上交通を活用したショートビワイチの提案

琵琶湖の保全・再生への意識向上

- 「ビワイチ」を通じ、国民的資産と位置付けられた琵琶湖の保全・再生への意識を高める

防災対策

熊本地震で新たな課題が露見。
滋賀県地震防災プランで安全で安心な暮らしを守る!



熊本の教訓を滋賀の防災対策に!

熊本地震において、災害派遣医療チーム、DMATや行政・民間の支援が入りましたが、地域によっては受援体制が整わず、受援体制の脆弱性が指摘されました。全国各地でたて続けに発生する地震の教訓から、**(仮称)滋賀県防災プランを策定し、①災害時における国や他府県、DMAT、ボランティア等からの支援の効率的かつ効果的な活用、②物資輸送等や帰宅困難者対策等、民間団体との連携による迅速かつ的確な災害応急対策、③家屋被害認定や「り災証明書」の発行等、被災地の早期復興と被災者の生活の再建に必要な不可欠な市町の業務への支援、④県民一人ひとりの災害に対する備えの充実・強化など、具体的な仕組みの構築を行っていきます。**

熊本地震の被災地を訪問

昨年4月に熊本にて一連の地震で震度7が2度も起こるとい、前代未聞の地震が起こりました。10月にローカルマニフェスト推進地方議員連盟の研修会に参加し、大西一史熊本市長から、「自助・共助・公助のあり方について」お話を伺うとともに、益城町、南阿蘇村など、被災地を訪問しました。また11月には、総合交通・防災対策特別委員会熊本城や熊本大学を訪問し、減災型社会に向けた取組みについて調査しました。

